

子どもたちの活躍

佐渡市展	ジュニア	書の部	
奨励賞	3年	「大空」	
奨励賞	4年	「里の秋」	
奨励賞	5年	「月見草」	
奨励賞	6年	「高原白雲」	

佐渡市展	ジュニア	絵の部	
奨励賞	6年		

新潟県競書大会			
硬筆	準特選	2年	
毛筆	金賞	6年	

＜11・12月の主な行事予定＞

11月		23日 (木)	(祝) 勤労感謝の日
1日 (水)	フッ化物洗口	24日 (金)	音楽朝会 A L T
2日 (木)	クラブ	28日 (火)	通級指導教室
3日 (金)	(祝) 文化の日		個別懇談会① (希望者)
7日 (火)	通級指導教室	29日 (水)	フッ化物洗口
8日 (水)	楽発表会		個別懇談会② (希望者)
	アミューズメント佐渡		第5回 P T A 総務会
9日 (木)	委員会	30日 (木)	全校テスト① 委員会
10日 (金)	児童朝会 (図書)		
	校内読書週間 (~16日) A L T	12月	
	2年福祉出前塾	1日 (金)	全校朝会 A L T 読み聞かせの会
14日 (火)	通級指導教室		学習参観・懇談会
15日 (水)	集金日	4日 (月)	集金日
	フッ化物洗口	5日 (火)	校外子ども会
	代表委員会	7日 (木)	全校テスト②
	るるぶ週間 (~25日)	8日 (金)	A L T
16日 (木)	クラブ最終日	12日 (火)	ふれあいタイム
17日 (金)	A L T 就学時健康診断	15日 (金)	音楽朝会 A L T
	ふれあいタイム	21日 (木)	2学期給食最終日
21日 (火)	ノーテレビ・ノーゲームの日		期末事務整理日
22日 (水)	家庭学習強調週間 (~12/6)	22日 (金)	第2学期終業式
	通級指導教室	23日 (土)	(祝) 天皇誕生日
	フッ化物洗口	25日 (月)	冬季休業 (~1/6まで)

(お知らせ)

- ・冬季休業中、書き初め教室を2日間予定しています。



「ものづくり」—自分でつくる体験と意欲—

校長 古塩 正明

日本人はよく手先が器用だと言われています。「ものづくり」は日本人の得意分野だということは世界中に広く知られています。しかし、それが最近危うくなっているという意見もあります。

現在は消費型社会であり、世界各地で生産された様々なものが身の回りにあふれています。私たちはそれらを選び、使うことで、便利さを感じながら毎日の生活を送っています。しかし、その一方で私たち自身が「ものづくり」の過程にふれたり、自分で工夫をしてもものをつくったりする機会は減りつつあると言われていています。子どもたち自身が遊び道具をつくったり、ものがつくられていく様子を見たりするなどの体験が少なくなり、「必要に応じて自分で工夫してつくる」意識から、「買えばよい」という意識に変化しつつあるのかもしれない。

数十年前になるでしょうか、鉛筆を削れない、倒れても受け身が取れない、お米をとげない等、昔なら皆できていたことができな子どもたちが増えてきていることが社会問題になったこともありました。カマやナタを使つての稲刈りや枝落とし、ナイフを使つてのリンゴの皮むき等々。いずれも鋭い刃物を使うので手を切ったり、肌が荒れたり、シミが残ったりして危険だということであまり子どもにさせなくなりました。

その反面、子どもたちは今、パソコンのキーボードをすごいスピードで操作しています。右手と左手を器用に使い分け、テレビゲームでは敏速な指先の動きを見せています。以前と違った道具で手先を使っていることの方が多いと言ってよいでしょう。つまり、現代においては刃物等を扱う技術を身につける必要がなくなりつつあるのも事実です。それは、いろいろなものが機械化されて便利になり、コンピュータが全てをしてくれるような時代になったからでしょうか。

けれども、こんな時代だからこそ、「ものづくり」の大切さを感じてしまいます。今のデジタルなものの考えが支配し始めた世の中に対して、子どもたち自身が自分のもつ知恵と身体をフルに発揮して取り組める「ものづくり」の活動は「生きる力」の源になると信じています。

かつて日本は手仕事の文化、伝統を通して人間性が育まれていました。「ものづくり」の仕事に携わった多くの人たちは、自分の腕や技に、「自信」をもっていました。それは頭で学んだものではなく身体で学んだ「自信」でした。そのような自信のある大人たちに守られながら、子どもたちは、生きていくための「人間性」をそれぞれ育んでいたように思います。身近な道具を自分の手で使いこなすことを通して、親と子ども、年配者と子ども、人と人との関わりが、「生きる力」を豊かに育んでいき、その原点が「ものづくり」にあったように思えます。

先日は文化祭で子どもたちの作品を保護者や地域の方々に見ていただきました。まさに子どもたち自身が自分のもつ知恵と身体を最大限に発揮して取り組んだ手作業の結果です。短い準備期間でしたが、心を込めて力いっぱい精いっぱい自分の手で仕上げた作品です。私たちはもう一度その「ものづくり」に参与することの責任の重要さを肝に銘じ、「ものづくり」の原点や意義、よさを再認識しながら教育活動を進めていきます。

校内マラソン大会

10月5日（木）。校内マラソン大会を行いました。大会当日子どもたちは、練習の成果を発揮し、それぞれのめあてを目指して、力強い走りを見せてくれました。赤泊小「当たり前だけど大切なこと」の9番目「苦しいこともがまんして取り組もう」のとおり、最後まで走りきる姿は立派でした。

ご多用の中、ボランティアで走路監視をしていただきましたPTA役員の皆さん、大会の応援にかけつけていただきました保護者・地域の皆様に、心より感謝申し上げます。



【3位以内に入った児童】

(新) は大会新記録

	1 位	2 位	3 位
1年女子 (1000m)			
1年男子 (1000m)			
2年女子 (1000m)			
2年男子 (1000m)			
3年女子 (1200m)			
3年男子 (1200m)			
4年女子 (1200m)			
4年男子 (1200m)			
5年女子 (1500m)			
5年男子 (2000m)			
6年女子 (1500m)			
6年男子 (2000m)			

<頑張った文化祭・学習発表会>



10月28日（土）2学期の一大イベントである作品展・学習発表会が行われました。大勢の前で自分を思いきり表現するのは、とても緊張しますが、よい経験になります。各学年、嗜好をこらした発表で、力いっぱい精いっぱい頑張りました。この経験を一つの節目として心も体もたくましく成長してくれたことをうれしく思います。

ご多用の中、ご参加くださいました保護者の皆様、地域の皆様、ご協力いただきました関係機関の皆様に深く感謝申し上げます。

文化祭・学習発表会の感想（各学年代表）

1年

ぼくは、図工でだんボールのお家を作りました。作るのがおもしろかったです。段ボールカッターでぎこぎこ切りました。やねに折り紙をはりました。時計も作りました。できあがった時、早く入って遊びたいと思いました。

発表では、ダンスを見たお母さんとおばあちゃんとお父さんが「よかったね。じょうずだったね。」といって、ギュッとやってくれました。とってもうれしかったです。

2年

がんばったところは、セリフをまちがえないようにしたことです。まちがえないようにできて、うれしかったです。ダンスでは、たねをまくとき、頭をかくしてしまっていたけど、さいごの大きいたねでは頭をかくさないでできてよかったです。村まつりでは、うたをおぼえておくのがむずかしかったです。

来年のはっぴょうでは、うごきと声を大きくしたいです。

3年

文化祭当日では、げきのセリフを言うときに、大きな声で言うことができよかったです。おどりの方面では、手をちゃんとのばすよかったです。おどりの先生が、たくさんほめてくれました。3年生みんなできょう力して、すてきな文化祭になってよかったです。来年も、ちゃんと練習をしっかりとつんで、すてきな文化祭にできるようにがんばりたいと思います。

4年

文化祭の練習では、台詞も動きも上手く出来ませんでした。けれど、いっぱい練習したら台詞も動きもかんぺきに出来るようになりました。

本番でぼくは、すごくきんちょうしたけれど、みんなの発表を見ていたらきんちょうしなくなりました。げきでは、堂々とできてすごく楽しい文化祭でした。来年もいい文化祭にしたいです。

5年

文化祭に向けて、どの学年も作品作りや学習発表会の準備が進んでいました。私は、6年生のおにだいが楽しみでした。理由は、毎年おに達がかっこよく舞っているの、今年もすごいんだろうなと思ったからです。

学習発表会当日は、私たち5年生の発表が成功してうれしかったです。練習では、あまり声が大きくなかったのですが、本番は大きな声が出て良かったです。どの学年の発表も良かったので、来年も楽しみです。

6年

鬼太鼓の練習で気をつけていたところは、太鼓のリズムです。特に人と代わる時にリズムがくずれやすいので、気をつけてやりました。通し練習では、スムーズにやることができました。本番では、会場の人たちも私たちの発表に、声を出してくれてうれしかったです。きんちょうしていましたが、リズムもあまりずれずに、たたけたと思います。

鬼太鼓の学習をして、赤泊の見たことのない祭りをくわしく知ることができました。鬼太鼓をやったよかったです。

学習発表会で子どもたちにご指導いただきました皆様
また、見学の際、いろいろ教えていただいた地域の多くの方々、本当にありがとうございました。今後ともご指導ご支援よろしくお願ひ申し上げます。